

研究と研修の一体化のさらなる充実をめざして

平成 26 年度、本研究所は「福井県教育研究所機能強化策の提言（平成 26 年 2 月）」を受け、研究所の組織を、4 課 1 室から、3 部（研修部、調査研究部、教育相談部）1 室（管理室）と改変しました。研究推進体制についても、それまでの個人研究主体の研究から、研究所としてのテーマに沿ったチーム主体の研究推進体制に変更しました。3 年間の中期目標に基づき、研究アドバイザーの先生方の御指導や御助言を受けながら取り組んできた研究も、今年度で 3 年目を迎え、区切りをつける時期となりました。

研究所全体として追究する研究テーマは、「何を教えるか」「どう教えるか」という教員目線の授業改善に加え、「どのように学ぶか」という児童・生徒目線の学びの質の向上や、学びに向かう力を育む教育環境を重視した教育活動のあり方です。

3 年目の今年度は、これまでの 2 年間を振り返りつつ、成果と課題を整理して、次年度以降の取組みにいかすという方針のもと、研修、調査研究、教育相談等に取り組みました。

研修部では、教育研究所としての新たな研修体系について、クロスセッションの活用や実践型集合研修、通信型研修、訪問研修の有機的な活用等についてさまざまな観点から検討し、考察しました。

調査研究部では、学力調査分析、数学、英語の三つのユニットの研究に加え、アクティブ・ラーニング、大学入試制度改革の各ユニットを追加して、研究に取り組みました。学力調査の結果に基づいて授業改善をすすめる「福井型学力向上サイクル」の確立や、学校現場と協働して、アクティブ・ラーニングの視点からの授業改善や C A N - D O リストの活用等、新しい学習観にたった授業づくり研究を進めてきました。

教育相談部では、学級集団と学力の関係に着目した研究を進めるとともに、望ましい学級集団を築くための指導法を提案したほか、家庭支援、学校支援の強化等のあり方についても検討を進めました。

この研究紀要には、各部における研究チーム（ユニット）の研究の過程、成果と課題、今後の研究の方向性等について記載しました。

教育研究所は、平成 29 年 4 月に、旧春江工業高校の跡地に、新たに福井県教育総合研究所として、教育博物館を併設するかたちで移転開所します。福井県教育総合研究所は、来年度以降も、教員研修システムの確立、研究機能の強化、教育支援・教育相談体制の充実等に取り組んでまいりたいと考えています。この研究紀要について、皆様からの御意見をいただければ幸いです。

福井県教育研究所 所長 小和田 和義